

第2学年 音楽科学習指導案

は組 男子18名 女子17名 計35名
指導者 五代 香織

1 題材 みんなで合わせようⅡ

教材 ◎「こうしんきょく」 チャイコフスキー 作曲（本時主教材）
「どこかで」 石桁冬樹 作詞・作曲
「ぶっかり くじら」 高木あきこ 作詞 長谷部匡俊 作曲

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第1学年題材「みんなであわせようⅠ」において、友だちの声や楽器の音を聴き合いながら拍の流れを感じ取ったり演奏したりする活動を通して、歌詞の内容や音楽の特徴を生かした表現の工夫をしたり、正しい音やリズムに気を付けながら歌ったり演奏したりすることの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、互いの歌声や楽器の音を合わせて歌ったり演奏したりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら、拍の流れやフレーズを意識して歌ったり演奏したりする活動を通して、互いの歌声や楽器の音色を聴きながら、音楽の特徴を生かして表現する能力を育てるとともに、互いの歌声や楽器の音色に関心を持ち、自分の声や歌を合わせて表現しようとする意欲や、**音楽の特徴や音楽の仕組みを生かした表現を工夫する能力**を高めることをねらいとして、本題材「みんなであわせようⅡ」を設定した。

ここでの学習は、音の重なりを感じ取って、美しく響き合う表現の工夫をする能力を育てる3年生題材「音の重なりを感じ取ってⅠ」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

互いの歌声や楽器の音色を聴きながら、音楽の特徴やフレーズを生かして表現する能力を高めるためには、音程やリズムなどに気を付けて、友達と合わせて表現したり、伴奏の流れを感じ取って表現したりする楽しさを味わえるようにすることが効果的である。特に、この期の子どもたちには、体の動きを伴った活動や互いに聴き合う活動を通して、友だちの歌声や伴奏の響きを聴きながら、自分の歌声や楽器の役割を意識し、演奏の面白さや喜びを味わうようにすることが大切である。

具体的には、まず、「こうしんきょく」を取り上げる。この曲は冒頭の旋律が繰り返し登場するのが印象的である。また、繰り返す旋律の中にトランペットとバイオリンが交互に現れたり、同時に重なったりするため、楽器の音色の違いや、音楽の仕組みを感じ取るのに適している。そこで、ここでは、**旋律を口ずさんだり、楽器を演奏するまねをしたりする活動を通して、楽器の音色や音楽の仕組みに気を付けて鑑賞する楽しさを味わえるようにする。**

次に、「どこかで」を取り上げる。この曲は輪唱の導入に適しており、1, 3, 5小節が同じ旋律である。また、2, 4, 6小節では擬音語の歌詞の部分の音が重なるようになっており、互いの歌声を聴き合いながら声を合わせて歌うのに適している。そこで、ここでは、互いの声を聴き合ったり、同じ旋律を歌っていることを感じたりしながら、音が重なり合う楽しさを味わえるようにする。

さらに、「ぶっかりくじら」を取り上げる。この曲は、主な旋律に副次的な旋律が加わった曲で、歌声と楽器の音による響きを味わうのに適している。また、主な旋律と副次的な旋律のリズムが異なるため、拍の流れにのりながら歌声と楽器の音を聴き合って演奏することにも適している。そこで、ここでは、拍の流れや休符を感じながら歌ったり演奏したりする活動を通して、音を聴き合いながら、気持ちを合わせて演奏する楽しさを味わえるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら目指す表現に向かって表現したり鑑賞したりすることへの意欲を高め、自分の思いをもって音楽経験を生かしながら楽しく音楽とかわかっていこうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態 (調査対象 2年は組 男子18名 女子17名 計35名)

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	みんなで合わせて歌ったり、楽器を演奏したりすることは好きですか。	はい(34) いいえ(1)
②	その理由を教えてください。(複数回答)	【「はい」の理由】 ・みんなと一緒にやるのが楽しいから(22) ・みんなが合わさると気持ちがいいから(11) ・みんなの心が一つになるから(10) ・一人でするよりもいい演奏になるから(10) ・安心して歌ったり演奏したりできるから(1) 【「いいえ」の理由】 ・間違えたらいやだから(1)
③	みんなで合わせて歌ったり、楽器を演奏したりするときにどんなことに気を付けますか。(複数回答)	・声や音の感じをそろえる(16) ・速さやリズムを正確に演奏する(12) ・まわりの音をよく聴く(6) ・出だしや息つぎをそろえる(4) ・心をそろえる(2)
④	友だちの声をよく聴いてみんなで合わせて歌いましょう。	・発声や音量に気を付けて、合わせて演奏できる(32) ・合わせて演奏することができない(3)
⑤	「おどるこねこ」を聴いて感じたことや気付いたこと(複数回答)	・速さの変化への気付き(22) ・情景のイメージ(18) ・楽器の音色への気付き(14) ・音楽の仕組みへの気付き(9) ・強弱の変化への気付き(3) ・旋律の感じの違いへの気付き(2)

①②から、みんなで合わせて歌ったり、演奏したりすることの楽しさを多くの子どもが感じている。その要因として、一緒に活動することの楽しさや、そのことから得られる心理的な満足感、技能面の高まりが多く挙げられた。一方「好きではない」と答えた子どもは、間違ふことで合わなくなるのではという不安を挙げていた。これは、みんなで作るという過程よりも、演奏した結果を重視していることが要因であると考えられる。

③から、みんなで合わせる際に、発声やリズム、速さを合わせる重要性に着目している子どもが多いが、どうすれば合うのかについて、その方法を挙げている子どもは少ない。これは、自分たちの目指す表現が明確でないために、目指す表現に到達するための方法について具体的にイメージできていないことが要因であると考えられる。

④から、多くの子どもが発声や音量に気を付けて、合わせて歌うことができているが、音程が不安定だったり、拍の流れが一定でなかったりする子どももいた。これは、音高感が不十分であったり、自分の演奏に精一杯で、周りの音を聴いていなかったりすることが要因であると考えられる。

⑤から、子どもたちは様々な音楽の特徴に気付いているものの、それらが生み出す働きを感じ取るまでには至っていない。そこで、感じたことと気付いたことを結び付けられるようにしていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では、旋律の反復や、楽器の音色、問いと答えから生まれる曲の気分や面白さを感じ取って鑑賞することができるようにする。そのために、**旋律を口ずさんだり楽器を演奏するまねをしたりしながら、音楽の特徴や仕組みに気付かせるような活動を設定する。**

イ 課題追求Ⅱの過程では、歌詞や旋律が反復する面白さを感じ取って、互いの声を聴き合いながら見通しをもって活動ができるようにする。そのために、**学習した鑑賞曲の想起をさせることで「旋律の反復」に着目させ、同じ旋律がどこに出てくるかを問う発問をしたり、重なり合う声の響きを互いに聴き合ったりする活動を設定する。**

ウ 課題追求Ⅲの過程では、歌声と楽器の音の組合せによる響きを聴きながら、旋律の特徴やフレーズを生かして演奏することの楽しさを味わうことができるようにする。そのために、音符や休符の長さ確かめながら演奏できるようにしたり、子どもたちの技能差に応じて分担奏を取り入れたりして、無理なく演奏ができるようにする。また、互いの歌声や楽器の音を聴き合うなど、歌声と楽器の音が重なり合うよさや面白さを感じ取ることができるような場を設定する。その際、**合わせて演奏できたときの方法を振り返らせるなどして、目指す表現に到達するための方法について見通しをもつことができるようにする。**

3 目標

- (1) 互いの歌声や楽器の音色に関心を持ち、自分の声や音を振り返りながら、進んで音楽活動に取り組むことができる。
- (2) 楽器の音色、旋律やフレーズを聴き取り、それらが生み出すよさを感じ取って、互いの声や音を聴き合いながら歌い方や演奏の仕方を工夫することができる。
- (3) 旋律の反復や問いと答えなどの音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って鑑賞したり、互いの声や音を聴きながら正しい音程やリズムで歌ったり演奏したりすることができる。

4 指導計画（全7時間）

過程	思いや意図を連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
課題把握	同じ旋律の繰り返しだ。他にもひみつはないかな。 繰り返しの気を付けて聴くと、たくさん音楽のひみつに気付いた。 タッカのリズムがたくさん出てくるぞ。はずんだかんで歌うときはおなかを使って短く切るようにして歌うんだね。 歌と楽器のリズムが違っているから、合わせにくいな。合わせるポイントはどこだろう。 音楽の特徴を生かして演奏したり、周りの声や音を聴きながら演奏すると、みんなの音が合っただけになるんだ。	「こうしんきよく」 ① ②	くりかえしにきをつけてきこう。（本時） ○ 楽曲を聴き、感じたことや気付いたことについて話し合う。 ○ 聴こえた楽器の演奏するまねをして体を動かしたり、反復部分をみつけたりする。	○ 旋律の繰り返しや楽器の音色に着目して鑑賞できるようにするために、既習曲を歌い、共通点や差異点を見いださせる。 ○ トランペットとバイオリンが交互にまたは一緒に演奏されたりすることに気付かせるために、演奏のまねや、アイコンカードを並べる活動を設定する ○ 自分の好きな部分を交流する活動を通して、どのように歌うか話し合う活動を取り入れる。 ○ 擬音語のところでは、声が響いているかを確認するために、音を伸ばして歌う活動を取り入れ、響きを感じるようにする。 ○ リズムの特徴に気付くことができるようにするために、リズム唱やリズム打ちをするなどの活動を取り入れる。 ○ みんなで合わせて歌うことができるようにするために、フレーズのまとまりに着目させ、休符やブレスに気を付けて歌うことができるようにする。 ○ 鍵盤ハーモニカでの演奏に無理なく取り組めるようにするために、演奏する前にグループごとに聴き合ったり、フレーズごとに歌ったりして楽しみながら階名唱をする。 ○ 主旋律と副次的な旋律を合わせて演奏できるようにするために、2つの旋律のリズムの特徴の違いに着目させ、どこをそろえたら合うのかを考えさせる。 ○ 自分たちの演奏を客観的に聴くことができるようにするために、ペアのグループで聴き合っただけ意見交換をしたり、自分たちの演奏の録音を聴いて、よいところや課題を話し合わせる。 ○ 子どもたち自身が全体の音量のバランスや速度、音楽の仕組みに気付くように、演奏するグループと聴くグループに分かれて、交互に発表・鑑賞をする。
課題追求Ⅰ		「どなかで」 ③ ④	おたがいのこえを ききあいながらうたおう。 ○ 範唱を聴いて話し合う。 ○ 体を動かして楽曲の気分を感じ取る。 ○ 友だちの歌声を聴きながら輪唱する。 ○ 相互発表・鑑賞をする。	
課題追求Ⅱ			はずんだリズムにきをつけておもなふしをうたおう。 ○ 範唱を聴いたり歌詞を読んだりして、感じたことや気付いたことについて話し合う。 ○ リズムの特徴を生かしたり、休符に気を付けて歌う。	
課題追求Ⅲ		「ぶつかりくじら」 ⑤ ⑦	もう一つのふしをえんそうしよう。 ○ 旋律の特徴やリズムに気を付けて範奏を聴く。 ○ 階名唱をする。 ○ 運指やリズムに気を付けて鍵盤ハーモニカで演奏する。 ○ 相互発表・鑑賞をする。	
まとめ			おたがいのこえやがっきのおとをききながら、合わせてえんそうしよう。 ○ 歌と楽器の組に分かれ、歌のはずんだリズムと、楽器のリズムの違いに気を付けて、歌声と楽器の響き合いを感じ取って合奏する。 ○ 相互発表・鑑賞をする。 ○ 学習のまとめをする。 ・ リズムにきをつけたりききあったりしながら、あわせてうたったりえんそうしたりするのがたのしかった。	

5 本 時 (1 / 7)



(1) 目 標

旋律の反復や楽器の音色に関心を持ち、音楽の特徴や音楽の仕組みに気付きながら進んで鑑賞することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的にした学び合いが重要だと考える。そこで、鑑賞の観点を見いださせるために、既習曲を用いて「旋律の反復」に焦点化する。また、自分の考えを体の動きや並べたカード等で可視化させることでそれぞれの楽器が交互または一緒に演奏されていることや「問いと答え」といったさらなる音楽の特徴や仕組みに気付くことができるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
課題把握	1 既習曲を歌い、  どちらの曲も歌のまねっこをしているみたいだ。	(分) ↑	○ 「反復」「問いと答え」といった音楽の仕組みに着目できるようにするために、それらの仕組みが使われている既習曲を想起させる。 ○ 反復や問いと答えを意識できるようにするために、既習曲と本時の楽曲の共通点を探しながら鑑賞するよう促す。
	2 「こうしんきょく」を聴き、感じたことや気付いたことを話し合う。 ・ 同じ旋律が何回も出てくる曲だな。 ・ 楽器の曲でも繰り返しがあるんだな。 	12 ↓	
課題追求	3 本時の学習について話し合う。 くりかえしにきをつけてきこう。	↓	○ 楽曲の特徴や仕組みに気付かせるために、何がどう繰り返されているか問う。その際、異なる考えを意図的に取り上げ、それぞれの考えを共有できる方法について考えさせるようにする。 ○ 子どもたちが音楽の特徴や仕組みについて理解できるようにするために、アイコンカードで楽器や曲の構成を示し、音楽を視覚的にとらえさせながら鑑賞する場を設定する。 ○ 自他の考えの質的な高まりを実感させるために、板書やワークシートで最初の感想と学習した後の感想を比較させることで自分やみんなの考えを振り返らせる。 ○ 次時以降の音楽活動において、目指す表現に到達するための手続きや方法の見直しをもてるようにするために、本時の学習の感想を発表させる際は、その背景となった活動も一緒に発表させるようにする。
	4 反復を観点にして楽曲のどこがどのように繰り返されているかに気を付けながら鑑賞する。 ・ 2つのちがう音色の楽器が呼びかけ合っているような曲だ。【音色】【問いと答え】 ・ 同じ旋律が何回も出てくる。【反復】 ・ 途中で、全然違う旋律も登場する。【旋律の変化】 ・ 2つの楽器が一緒に合わさるところもある。【音の重なり】	↑	
	5 自分の考えを交流し、共有する。 ・ 色分けアイコンカードを並べながら ・ 楽器の演奏のまねをしながら ・ 決まった旋律が出てきたら、合図する ・ 演奏の動画を見て、楽器の出る順番を確かめる など	25 ↓	
まとめ	6 曲全体を通して鑑賞し、学習のまとめをする。 ・ くりかえしにきをつけてきいたら、「こうしんきょく」のひみつをたくさん見つけられたよ。 ・ いろいろながっきのおとがなんどもでてきたり、ちがうがっきのおとがこうたいででてきたり、一しょにでてきたりしているところがおもしろいな。	8 ↓	